

Galactoccele の一例

金沢大学医学部久留外科教室(主任 久留勝教授)

龍澤俊彦

Toshihiko Tatsuzawa

(昭和25年12月14日 受附)

(本論文の要旨は第4回北陸医学会に発表す)

本症は Galactoccele 又は, Milchcyste として記載せられている比較的稀な疾患であり, その成因に関しても種々の説があり, 一定しており

ません. 私は最近本症の一例を経験しましたので, こゝに報告し度いと思ひます.

症 例

患者 37歳, 既産婦.

既往症 28歳の時, 胃下垂症と言はれた事の外, 著患を識りません.

現症歴 1947年11月(患者34歳の時), 4回目の出産をしました. これ迄の3児は総て両側の乳より授乳しましたが, この第4児のみは, 左側の乳房を好まず, 殆んど右乳房よりのみ授乳したと言ひます. 所が1948年3月になり, 左乳房内に小指頭大の腫瘤のあるのに気付き, 同月下旬当外科を訪れました. 当時該腫瘤は, 自発痛も圧痛もなく, 左乳房線維腺腫の疑の下に経過を観察して居ましたが, 爾來漸次増大し, 拇指頭大となりました. 1950年5月上旬, 軽い作業の後, 左腋窩に痛みを覚え, 圧痛もあるので, 再び当外來を訪れました.

現 症

患者は体格は小さいが, 栄養は良好で, 乳房の發育は両側共に比較的良好です. 左乳房乳嘴の直外側上部に拇指頭大の, 硬く圧痛のない, 良く移動して皮膚及

び底部と癒着の認められない腫瘤を触れました. 又同側の腋窩に小指頭大の圧痛ある, 比較的軟い腫脹せる淋巴腺を触知し得ました. 5月31日に乳房の腫瘤を剔出しました. 腫瘤は, 写真に示す様な, $2 \times 2.5 \times 2$ cmの囊腫でありまして, 内容は淡黄白色の液で満されておりました. 術後7日目に全治退院致しました.

組織学的所見

囊腫壁は, 内層は1層の骰子形細胞よりなり, 一部円柱状細胞より成る上皮を有し, 下層は膠様結締織であります. 上皮はその膠様結締織中に浸潤しておらず, 又内腔に向つて乳嘴状増殖を作る傾向も認められません. 周囲の組織は乳汁分泌の状態を呈せる, 良く發育した授乳時の乳腺組織であります. 即ち乳腺を基幹とする囊腫性の構造で, 周囲にも細胞浸潤, 毛細血管の著明な新生, 肉芽組織等の炎症性変化を欠き, 又腺管の増殖, 核分裂像等の悪性変化も証明出来ません. 即ち乳汁を内容とした單純な囊腫である事が判定致しました.

考 案

Galactoccele は, 比較的稀な疾患でありまして, 私の調べました所では, 60数例の報告を見るに過ぎません. 殊に我国に於ては, 僅かに4例の報告を見るのみで, 且つ組織学的所見の記

載あるものは甚だ僅少であります(山本²⁵⁾林¹¹⁾). 併し報告せられない症例は, 寧ろ多いのではないかと考へられます.

Galactoccele の分類は, Velpeau²⁴⁾ は, 1) 浸

潤性, 2) 水様性, 3) 固形性 の三つに分類し, Grynfeltt 及び Tzélépoglou¹⁰⁾ は 1) 拡張型, 2) 間質型, 3) 腺腫型, 4) 化膿型, 5) 混合型 に分けております。何れも完全な分類とは言へませんが, 本例は Velpeau²⁴⁾ の水様性 Galactocele に相当するものと考へられます。

本疾患は経産婦に多く, 年齢的には乳腺の機能の最も盛んな18~40歳に最も多く(43例中86%強), 特に20~25歳(15例)の女性に多く認められます。併しながら特異な例としては, Silovzev²¹⁾ の報告による1年4ヶ月, Kirmisson¹³⁾ の例の13歳の男児があり, 又 Velpeau²⁴⁾ は75歳の老翁にも認められた経験を報告しております。

左右の別では, 41例中22例が左, 19例が右で, 左に僅かに多く認められます。

分娩数との関係は, 初産婦と経産婦との比を見ますと, 症例が少ないので, 確実な断定は出来ませんが, 経産婦の方が初産婦の2倍乃至それ以上ある様であります。

腫瘤を認めたのは, 勿論上述の3例の男子の如く, 全く分娩に関係のない症例もあります。多くは分娩後1年以内に認め, 或は増大する様であります。併し Schreger²⁰⁾, Barrier²⁵⁾ の症例の如く妊娠初期に認められたものもあります。以上の所見から, 本症の発生に, 乳腺に対するホルモンの影響が可成り大きな役割を果しているかに思はれます。

腫瘍の大きさは区々で, 小指頭大から成人頭大に及び (Tailhefer²³⁾), 穿刺により約2000ccの乳汁を排出した例の報告もあります。

内容は, 乳汁の多少共変化したものが多く, その化学的構成要素の詳細なる報告は下表の如くであり, カゼイン及び乳糖すら認めない場合すらあり (Nordmann¹⁷⁾), 各症例により, 相当に異つております。又本症が混合感染を起す場合もあり, Matrakowski¹⁵⁾ の例では, 球菌, 双球菌が相当多く発見され, Kortweg¹⁴⁾ の例では, 過去に乳腺炎の既往があり, 連鎖状球菌が発見されております。

内容構成要素の報告例 (Grynfeltt, Tzélépoglou¹⁰⁾ に依る)

構成要素	正常乳汁 (Arthus による)	Bouchacourt の例	Matolakourski の例
水分	89.0	91.2	41.45
残滓		?	12.60
蛋白質	2.0	2.2	7.14
脂肪	3.6	2.5	38.78
乳糖	5.0	3.8	0
塩類	0.4	0.3	?

Galactocele の成因に関しては, 諸説ありまして一定せず, Grynfeltt 及び Tzélépoglou¹⁰⁾ は, 1. 滯溜, 2. 浸潤, 3. 炎症 を挙げております。又 Cheatele 及び Culter⁷⁾ は次の三つに分類しております。即ち

- 1) 嚢腫形成は
 - a) 炎症性過程
 - b) 増殖する結締織
 - c) 上皮崩壊物の栓塞

によつて原發性に起つた腺管の閉塞によるもの

2) 嚢腫は, 腺管と腺胞の中で, 上皮増殖の結果として原發性に形成され, それ等の拡張を説明するのに, 腺管の閉塞は全く必要を認めないとするもの

3) 上皮増殖と, 腺管の閉塞の結合した2要素によるといふものであります。

第1の説に左袒する学者は少なからずあり,

Virchow は既往にあつた乳腺炎の癍痕により、又は組織の萎縮による乳汁管の牽引又は狭窄を乳汁鬱滞の原因とし、Millul, Giorgio¹⁰⁾, Taddei Antonio²⁰⁾ 等も乳腺の炎症過程を原因として重視しております。併し青山¹⁾及び私の例等の如く乳腺炎の既往の全く認められない症例も稀ではありません。尙腺管の閉塞の原因として、Kirmisson¹³⁾, Bouchacourt⁵⁾ の例の如く外傷が誘因をなし、又 Brevda⁹⁾ の例の如く腫瘍(多くは腺腫及び線維腺腫)による乳汁管の圧迫等を挙げている者もあります。その他、乳汁の分泌又は吸収異常や卵巣機能異常説もあります。私の例に於きましては、乳腺炎の既往はなく、組織学的にも全く炎症性変化を認められず、山本²⁵⁾, 林¹¹⁾ 両氏等が特に本症に特異的に認められたといふ肉芽組織、或は Pseudoxanthomzellen 等も認め得ず、全く Cystom の像を呈しておりました。従つてその成因も炎症によるものではなく、恐らく第2又は第3の原因によるものと解釈すべきでありませう。

本症の診断は、本例の如く小さいものでは、波動が認め難く、腺腫又は線維腺腫との鑑別が困難であります。或程度以上大きくなりますと、多くは無痛性の、炎症症状のない、良性の

腫瘍として認められ、穿刺によつて乳汁を確認し得れば診断は最も確實となりませう。但し腺腫、線維腫、癌腫等と合併している場合の診断は、困難な事は言ふ迄もありません。

Velpeau²⁴⁾ の第2型の固形性 Galactocoele では、それが表面に近く存する場合、粉瘤或は皮様嚢腫等とよく似た外観を呈し得ますが、勿論その好発部位及び乳腺との關聯の有無から鑑別診断は困難でないと思ひます。

本症の経過は緩慢で、Bardon 及び Piechaud²²⁾ の如く30年も特別の変化もなく存続するものもあります。Scarpa¹⁸⁾ の例の如く、比較的早いものもあります。生殖器疾患、月経、妊娠、授乳等が経過を左右する事が多いと言はれます。

転帰としては、後に石灰化を來して乳石を作る場合もあり、又稀には自然に消失する例もあります(Delibet⁹⁾)。又 Kehler 及び Korteweg¹⁴⁾ の例の如く、化膿を來す事もあり、Cooper⁹⁾ の例の如く穿刺排液後暫くの間、乳汁瘻孔を残した例もあります。

予後は良好で悪性変化を來す事は殆んどなく、治療は他の乳腺の良性腫瘍と同様であります。

結 論

以上37歳の既婚婦に於て、最終分娩後4ヶ月後に発見せられた左乳房内の小指頭大の Galactocoele の一例を報告し、既往の文献を涉猟して考案を加へました。

稿を終るに臨み恩師久留教授の御懇篤なる御指導並に御校閲に対し衷心より感謝の意を表し、併せて御援助を賜りたる病理学教室宮田教授に対し感謝の意を表します。

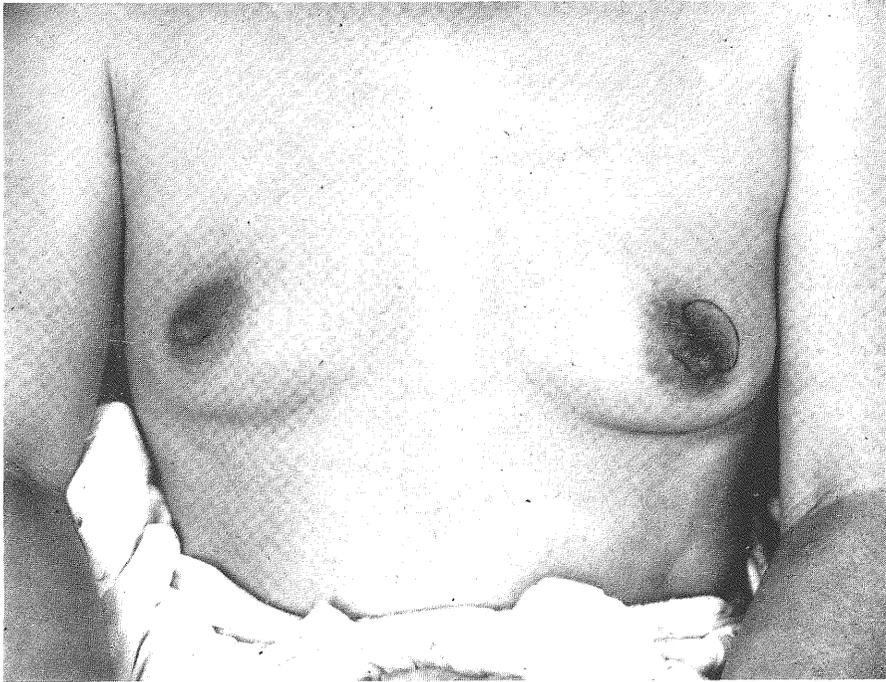
文 献

- 1) 青山徹三：乳汁嚢腫。日本外科学会雑誌，第16回，3号，66(大正4年)。 2) Bardou, Piéchaud. : Sul un cas de galactocoele. Bull. Soc. Obster. Par. 8, 569 (1925). [Zbl. Chir. 53, 2825 (1926) に依る]。 3) Barrier. : Gaz. Hôp. 23, (1850). [Virchows Arch. 147, 486 (1897) に依る]。 4) Bloodgood. :

- Benign and malignant cystic tumors of the females breast. Johns Hosp. Bull. 18, 139-141 (1907)。 5) Bouchacourt. : Canstt's Jahresberichten. 1857. [Virchows Arch. 147, 486 (1897) に依る]。 6) Brevda. : Galactocoele. Nov. Chir. Arch. 20, 433-439 (1930). [Z. Org. Chir. 54, 748 (1931) に依る]。 7)

龍澤論文附圖

第 1 圖



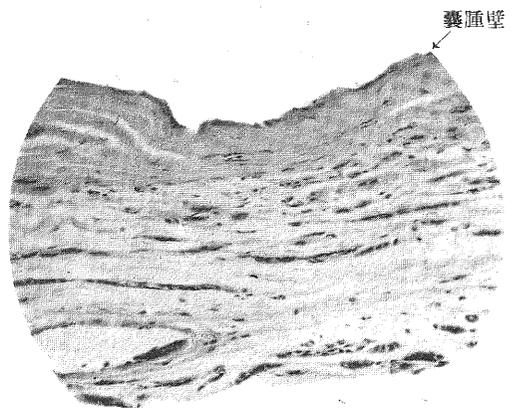
黒線にて腫傷の大きさを示す

第 2 圖



抽出標本写真

第 3 圖



囊腫の組織標本写真

- Cheatle, Culter.** : Tumor of the breast. (1931). 8) **Cooper, A.** : Virchows Arch. **147**, 478 (1897) に依る. 9) **Delbet.** : Virchows Arch. **147**, 524 (1897) に依る. 10) **Grynfeltt, Tzélépogiou.** : Les galactocèles. Gynéc. et Obstétr. **5**, 105—128, 204—227 (1922). 11) **林春雄.** : 右乳房に発生せる Galactocele の一例, 外科, **6**, 465—466 (昭和17年). 12) **Kehrer.** : Müller's Geburtshülfe. **3**, 487—490 (1889). 13) **Kirmisson.** : Kyste laiteux de sein gauche chez un garçon de treize ans. Bull. Soc. Chir. Par. **25**, 707 (1900). [Zbl. Chir. **52**, 335 (1900) に依る]. 14) **Korteweg.** : Galactocele bei Mastitis. Ndd. Tsch. Geneesk. **10**, (1891). [Zbl. Gynek. **15**, 1007 (1891) に依る]. 15) **Matrakowski.** : Virchow-Hirsch's Jahresberichten. **2**, (1885). [Virchows Arch. **147**, 490 (1897) に依る]. 16) **Millul, Giorgio.** : Intorno ad un caso di galactocele. Rif. med. **42**, 961—963 (1926). [Z. Org. Chir. **37**, 99 (1927) に依る]. 17) **中村徳吉.** : 乳嚢腫の一例. 日本外科学会雑誌, 第16回, 2号, 127—128 (大正4年). 18) **Nordmann.** : Ueber die Galactocele. Virchows Arch. **147**, 475—535 (1897). 19) **Scarpa.** : Opusculi di chirurgia. **2**, (1825). [Virchows Arch. **147**, 476—477 (1897) に依る]. 20) **Schreger.** : Horn's Arch. med. Erfahr. **2**, 217 (1810). [Virchows Arch. **147**, 477 (1897) に依る]. 21) **Silovzev.** : Seltene Geschwülste der männlichen Brustdrüs. Klin. Sarat. univ. **2**, 427—440 (1926). [Z. Org. Chir. **37**, 101 (1927) に依る]. 22) **Taddei, Antonio.** : Studio sul galactocele. Istit. di Clin. Chir. Gener. Univ., Pisa. Clin. chir. **9**, 1—23 (1933). [Z. Org. Chir. **63**, 45 (1933) に依る]. 23) **Tairhefer.** : Ein Fall von Galaktokele. Rev. Chir. **23**, (1903). [Zbl. Chir. **31**, 794 (1904) に依る]. 24) **Velpeau.** : Virchows Arch. **147**, 481—485 (1897) に依る. 25) **山本つや子.** : Galactocele の一例. 日本医学及健康保険, **3250**, 2313 (昭和16年).